

## 「SDGsと新型コロナ」オンライン・セミナー第5回 まとめ

60名をこえる参加！ みんなのSDGs主催オンライン・セミナー、「SDGsと新型コロナ:「だれ一人取り残さないSDGs進捗評価:日本の自発的国家レビュー(VNR)に向けて」」を2021年2月22日に開催しました。

総合司会を木村聖氏（JICA企画部イノベーション・SDGs推進室）、モデレーターを佐藤寛氏（国際開発学会社会連携委員会/アジア経済研究所）に、「SDGsの取組から誰一人取り残さないための進捗管理・モニタリングのあり方」について、講師からのプレゼンテーションののち、パネルディスカッションを行いました。

一般社団法人 SDGs市民社会ネットワーク政策担当顧問/SDGs推進円卓会議構成員の稻場雅紀氏は「日本政府によるSDGs達成に向けた進捗管理・モニタリングの検討状況について」と題し、本年（2021年）7月に予定されている国連ハイレベル政治フォーラム（High Level Political Forum: HLPF）における日本政府によるVNRに対し、選択的にアピールポイントを発信するに留まらず、自発的に課題を特定し、戦略を検討するような、目標達成に繋がるレビューの重要性を強調するとともに、それを実現するために市民社会が果たす役割、そして、SDGsも想定外であった新型コロナ禍を踏まえ、今後重要な論点を提起頂きました。

一般社団法人ヒューネットアカデミー代表理事の勝又幸子氏は「日本政府のVNRから取り残されがちな課題について（障がいなどの観点から）」として、様々なSDGs指標に横断的に関わっている障がい課題について、日本国内の実態を捉えられていない現状や、統計データで実態を明らかにすることで課題解決のポイントを明示できる可能性、一方で障がいを定義する困難さ、そして障がい者統計の充実に向けた現在の取組みとVNRに向けた市民社会による具体的なご提案を頂きました。

認定NPO法人グッド・エイジング・エールズ代表の松中権氏は、「当事者・市民が課題を前に進めた事例：LGBTの人権の取組みと評価・指標の活用」と題し、LGBTが当たり前に隣にいる存在となるような場づくりに関する取組みについて、存在の可視化、課題の可視化、取組の可視化、協働の可視化というプロセスを時系列に沿ってご説明頂き、年を追うごとに自治体や企業を含めアクターが多様化してきた様子、これらアクターの取組みを可視化する指標作成や政策提言に関する取組みを網羅的にご紹介頂きました。

後半はパネル形式で、SDGsの取組から誰一人取り残さないための進捗管理・モニタリングのあり方について以下のようないふり議論が行われました。

- 既に公的扶助を受けられている障がい者とこれから権利を勝ち取ろうとするLGBTとでは、活動のアプローチが異なるとの理解に基づき、課題解決に向けて働きかけたり協働するアクターがそれぞれ異なっていたことに気づいた。
- コロナ禍の分断をどのように乗り切るか、という点において、他の弱者にも共感できる障がい当事者や、過去に分断を経験したLGBTは、当事者団体以外を巻き込み現状の改善を目指してきた経験も踏まえ、SDGsを政策提言のレバレッジとして活用することで、課題解決が期待される。
- SDGsが重視するバックキャスティングの考え方について、過去に各分野で積み重ねてきた活動の実績と現地認識に基づくフォアキャスティングを否定するものではないが、気候変動対策等をはじめ、バックキャスティングでなければ着目されない課題もあることは事実。実効性のある進捗管理・モニタリングとするためには、共通の夢やビジョンを描けることがバックキャスティングで取り組むための条件である。

今回のセミナーでは、国内における障がい者とLGBTに関し、実態の把握に繋がる統計データの重要性や、指標作成による取組みの可視化の有効性、個別支援から政策提言・制度改善に至るまでの進捗管理・モニタリングの重要性が共有されました。次回以降のセミナーでは、引き続き「SDGsと新型コロナ」というテーマで、「取り残されがちな人々」の置かれた状況やその取組みに関するセミナーを開催していく予定です。多くの方のご参加をお待ちしております。

以上

\* 「みんなのSDGs」はSDGsの推進にコミットする複数の団体の緩やかな意見交換フォーラム。

\*これまで、「SDGsと新型コロナ」をテーマに、在日外国人や「障がい課題」などに関するセミナーを実施した。過去のイベント報告書や今後の企画については、リンクを参照。<http://www.our-sdgs.org/>